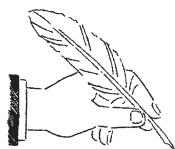




## 書体の特性を知って活用してみよう!

コミュパレでは「自分たちの想いが伝わる・届けられるデザイン」の作成方法や、印刷物作りのヒントになる情報を発信していきます。今回は「フォント(書体)」のゴシック体・サンセリフ体についてご紹介しましたが、今回は明朝体・セリフ体について取り上げます!



## 欧文の「セリフ体」と日本語の「明朝体」、似ているけれど…?

前回のコミュパレで、欧文書体はセリフと呼ばれる装飾がついている「セリフ体」と、セリフがない「サンセリフ体」に分類されること、欧文書体と同様に日本語(和文)の書体も「明朝体」と「ゴシック体」に分類されていることをご紹介しました。

欧文書体における「セリフ」とは文字の書き始めや書き終わりに付けるひげ飾りのことで、和文書体の明朝体での「とめ・はね・はらい」とよく似ています。しかし、セリフ体と明朝体の起源は異なり、また「とめ・はね・はらい」は「セリフ」とは異なる装飾なのです。

### 欧文書体の「セリフ体」

15世紀初頭頃、ヨーロッパでは手書きによって本が生産されていましたが、ドイツ人のヨハネス・グーテンベルクによってセリフ体の活字が作られ、「活版印刷」が発明されました。活版印刷は、「羅針盤」「火薬」と並ぶルネサンスの3大発明の1つとされています。

セリフ体は、平筆やハケで書いた当時の手書き文字を参考に作られたと言われていて、筆ペンで文字を書くと文字の線の太さに変化が生じるように、セリフ体も文字の線幅に変化が見られるのが特徴です。セリフ体には手書き文字の名残が見られるため、人が書いたような温かみを感じられます。



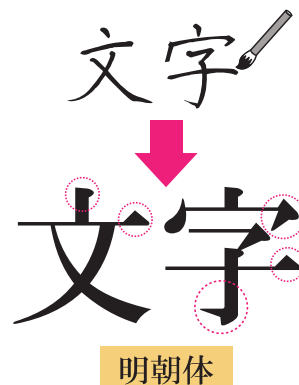
ヨハネス・グーテンベルク



### 和文書体の「明朝体」

10世紀頃の中国では筆で文字を書いていたのですが、この筆文字を木版印刷するために簡素にする必要がありました。明朝体は、もともとは宋の時代に盛んであった木版印刷から発展した文字の形であり、それが日本に伝わり日本で名づけられた書体です。セリフ体と同様に手書き文字をベースに作られているため、変化のある線幅からその名残を感じられます。

前回のコミュパレで紹介したゴシック体は「視認性」が高い書体でしたが、明朝体は「可読性」が高い書体です。視認性とは目で見た時の認識のしやすさを意味し、可読性は文字や文章の読みやすさを意味します。そのため明朝体は新聞や書籍、教科書等の本文に使われることが多いのです。



# お客様が作成された印刷物のご紹介

デザイン作成のヒントが見つかるかも!? ジムブレーションのお客様が実際に作成された印刷物を例に挙げ、「どんな部分にこだわっているのか」「想いを伝えるためにされている工夫」等を皆様にご紹介していきます。

## 劇団風の子中部 様

A4サイズ/両面カラー印刷

### どんな印刷物?

観劇された方からいただいた感想を掲載している、劇団会員へ配布するための印刷物です。

#### 劇団風の子中部

### ぱるりとどき

#### 感想文いろいろ

● きょうは、ほんとうに1日さいこうでした。なつとびの中でなわとびをするのもとてもいいかんがえてとてもおもしろかったです。(1年生・男子)

● わたしはむかしあそびや、むかしのことをよくしりません。けれど、今日のお手玉や、なわとび、竹馬、かさぐるま、わがさ、いろいろなものをやっていたのでびっくりしました。さいこのげきの、シロといぼりんぼうのとのさまがただかっていたところがすごくおもしろかったです。さくらもきれいでほんものにも見えました。今日はとてもいい日になりました。だから、まだできればください。(2年生・女子)

● ほくは、さいこのはなさかこそろがおもしろかったです。ももじゃなくてかきから犬がでてくるなんてびっくりしました。さくらにこんむかしはなしがあるとは知りませんでした。(3年生・男子)

● お手玉や、紙風船のわざなどを見た時とてもおどろいておもわず「わぁ」と言ってしまうほどでした。私が心に残ったのは最後のげきでした。とてもユーモアのある作品だと思いました。また見たいです。(4年生・女子)

● 今まで、このような明るく楽しく笑えるような劇は一度も見ていなかったと思います。特に最後の「はなさかこそろ」がいいと思いました。はじめは「ももたろうでしょ」と思ったけれど、意外な感じがいて本当に「はなさかこそろ」になったのがさすがだなあと感じました。(5年生・男子)

● 今はゲームばかりですが、昔遊びがとてもおもしろそうなのでやってみたいなと思いました。(6年生・男子)

● 岐阜県の事や日本の文化や遊びの事がとてもよくわかりました。お手玉がしたいなあと思いました。最後のお話は、あちゃんが1人で3人の役を演じているのとてもすごいなあと思いました。くまちゃんもたくさんのお話を演じて、その声があっちゃんの動きとすごくあっていて、とても息が合っているなあと思いました。(6年生・男子)

#### お客様のこだわり Point 03

文頭の黒丸を可愛らしくしたいと思い、作成者が手書きでお手玉を描いた。紙面が単調にならずどんな劇だったかがより伝わるようにされたそうです。

#### お客様のこだわり Point 01

写真と文面をまんべんなく見てもらえるように、整列させるのではなく配置を工夫されたそうです。

#### お客様のこだわり Point 02

写真や子供たちが描いたイラストを載せ、劇の様子がより伝わるようにされているそうです。

● 会場の外からの音で始まり、子どもたちが耳を澄まして集中することができていた。何の音だろう。何が始まるんだろうと一人ひとり考え、何かを感じながら観ている姿を感じました。(大人)

● 始まった時のわくわくが普段感じることのない気持ちでとても楽しかったです。子どももみんな舞台に入り込んでいる感じで、みんな同じものをみているってやっぱり素晴らしい!! 1歳の子もとても真剣でした! 笑ったり、手をたたいたり!(大人)

● 登場から楽しく3歳児がくげび。正直1時間も見てられないと思っていたのに、すごく楽しんで観てくれてよかったです。(大人)

● お話の内容は郷土の昔話ということで、どうか～と思っていましたが「はなさかいいさん」ならぬ「こそろ」でわかりやすく面白くてよかったです。笑うところ、感動するところ、短い間に詰め込まれていたと思います。(大人)

● 「あっちゃんの竹馬ちっちゃかったね〜くまちゃんの竹馬大きかった!」「さっちゃん、昔のお手玉上手だったね!」などよく観て覚えていて、お兄ちゃんにも何話も話していました。くまちゃんも「大人もたまには遊ばないと!」と言っていました。本当にその通りだと思いました。真剣で遊んでみたくなりました。(大人)

● 子どもたちの笑い転げる声や、ほっぺを赤くして真剣に見つめる姿の中で気づいたらあっという間に一時間が過ぎていました。(大人)

● 夕方子どもたちと劇の話をしているうちに紙風船を傘で回す話になり、子どもがやりたい、と言い出し、早速兄、姉といっしょにやっていました。(大人)

● とても楽しかったです。色々なおもちゃがふられている今、昔の遊びのように自分で考えながら遊ぶことが少なくなっているように思いました。ボールつでも楽しく遊ぶ。工夫すれば何でも遊べる。親も子どもと一緒に気長に考えながら遊べるといういなあ、と感じました。(大人)

● 年少の娘と1歳半の娘がいます。和傘、お手玉、竹馬、紙風船・・・日本古来のものであるのに、最近では手にすることもほとんどありません。今日の劇を観て、娘もいろいろと興味を持ったことも多いようで、とても楽しかった〜と何度も話題になりました。私も小さな子どもの興味を共感しながら、昔あそびにも手を伸ばしてみようと思いました。(大人)

● 内容は年少さんだと少し難しいかな、と思いましたが、(昔の遊び)かくれんぼなど普段遊んでいる遊びはよく見ていたり、繰り返しの動きは子どもたちとても楽しめたと思います。(保育士)

● 部屋に停ってきた3歳児が、広告を丸めて横笛をつくり、横笛を吹きながら返すまく仕草をしていました。そんな様子に心があたたかくなりました。こうした機会を子どもが経験できることは、心の成長に大切なことだと思いました。(保育士)

2015企画で公演させていただいた子ども・おやこ劇、そして小学校や幼稚園、保育園から頂いた感想文から一部を掲載させていただきました。(原文ママ)

### 伝わる印刷物の特徴

- 写真で様子を伝わりやすく、イラストで紙面を華やかに!
- 項目の区切りを合かりやすくすることで読み手に配慮

